



碧南ロータリークラブ週報

第3035回例会 令和4年11月30日(水)

- 会長 長田 和徳
- 幹事 清澤 聡之
- 会場監督(SAA) 縦山 朋久

2022-2023 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内
TEL<0566>41-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 例会場 碧南商工会議所ホール
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
FAX<0566>48-1100



- 会報委員 鈴木 洋・長田一希・杉浦保子

●本日のお弁当

大正館

●本日のお客様

西尾一色RC I.M実行委員長 鈴木茂朗様

〃 I.M実行委員 池田榮三様

碧南市経済環境部農業水産課 課長 牧 勝彦様

愛知県農村生活アドバイザー碧南地区 代表 永井由美様はじめ8名

会 長 挨拶

皆さん、こんにちは。

この頃、めっきり寒くなってきました。最近春と秋が大変短く、夏と冬が長いような感じがする今日この頃でございます。

先日、愛知県の県政 150 周年の記念式典に出席してまいりました。皆さんも週末にブルーインパルス飛行を見られたのではないかと思います。あれも愛知県制 150 周年の記念事業の 1 つであります。

1871 (明治 4) 年 7 月 14 日に廃藩置県が実施されまして、尾張の名古屋県と三河の額田県という 2 つの県になりました。翌年の 1872 (明治 5) 年に両者が合併して、愛知県が発足したということです。当時の愛知県の人口は 120 万人だったそうで、現在は 750 万人ですので、約 6 倍に増加したことになります。因みに当時の日本の人口は 3480 万人で、現在は 1 億 2800 万人ですから、全体で約 4 倍に増加したことになります。

廃藩置県のことは歴史で習ったと思いますが、250 年以上に亘って続いた江戸時代の地方統治システム「藩」を廃止して、新たに明治新政府直轄の「県」を置くという政策です。これで中央集権国家としてのスタートがとれることになった明治維新の中でも最大の変革と



長田和徳会長

言えます。

それで、愛知県制 150 周年の記念事業のメインイベントですが、ジブリパークの建設です。大村知事の肝煎りの事業で、普通ならテーマパークは民間がやるものだと思うんですけども、たまたま愛・地球博のサツキとメイの家がきっかけとなって、愛知に大きな集客を期待できるテーマパークが出現することになりました。東のディズニーランド、西のユニバーサル・スタジオ・ジャパンに並ぶテーマパークに発展するといいなあと感じております。

因みに県制 100 周年の時の記念事業は西尾市の愛知こどもの国の建設でした。私も小学生の時には自転車で遊びに行った思い出があります。ジブリパークが愛知こどもの国のように 50 年後風化していないことを祈るばかりであります。

本日もよろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告を申し上げます。

- ・ 例会変更のお知らせは、今週はございません。
- ・ ロータリー日本事務局より「2022 年手続き要覧掲載のご案内」が届いております。
- ・ ガバナー事務所より「箆橋ガバナー主催 メルボルン国際大会ガバナーナイト登録のご案内」が届いております。
- ・ 地区大会のお礼状とアンケートのお願いが届いております。
- ・ 名古屋ユネスコ協会より「書き損じはがき」送付の受領とお礼状が届いております。



清澤聡之幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励ニコボックス委員会>

| | |
|--|------------|
| 総会員数 60 名 (内出席免除者 15 名の内出席者 11 名) 出席者 46 名 | |
| 出席対象者 46/56 名 | 出席率 82.14% |
| 欠席者 14 名 (病欠者 1 名) | |

<ニコボックス>

西尾一色 RC 鈴木茂朗様 IMをよろしく申し上げます。IMで会いましょう。

〃 池田榮三様 IMには沢山の御参加、宜しくお願い致します。

長田 和徳君 IM実行委員長 鈴木様、委員の池田様、ようこそ碧南ロータリークラブにいらっしやいました。

鈴木きよみ君 愛知県農村生活アドバイザー碧南地区の皆さん、食育紙芝居の実演ありがとうございます。

岡本 耕也君 大変遅くなりましたが、11月10日の3クラブ親睦ゴルフ大会で、7月

につづいて連続優勝させて頂きました。次回4月も狙います！

長田 康弘君

本日の卓話講師の農業水産課長 牧 勝彦様、愛知県農村生活アドバイザー
碧南地区 代表 永井由美様をはじめ8名の方を紹介いたします。

卓 話

「碧南の農業と女性の活躍」

碧南市経済環境部農業水産課 課長 牧 勝彦様

愛知県農村生活アドバイザー碧南地区 代表

永井由美様はじめ8名



牧 勝彦様

皆様、改めまして、こんにちは。

本日は碧南 RC 様の例会にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。先程の紹介にもありました通り、私は4月に農業水産課の課長を拝命致しまして、まだ日が浅く、このような講演の機会をいただきまして、大変嬉しく感じているところではございますが、まだまだ不慣れでございまして、皆様の期待に応えられるかどうか不安を感じております。どうか皆様、大らかな気持ちでお聞きいただけたらと存じますので、よろしくお願い致します。

さて、本日のテーマは「碧南の農業と女性の活躍」ということとでございます。内容についてですが、まずは碧南の農業の概要について、「愛知へきなんの農業」という冊子を用いまして、ご説明させていただきます。続きまして、ホッチキス止めの資料を用いまして、農業における女性の活躍についてのお話をさせていただきます、最後に愛知県農村生活アドバイザーの皆さんに食育紙芝居を披露していただくという流れとさせていただきます。

まずは碧南の農業の概要についてのご説明をさせていただきます。碧南市の農業は温暖な気候と矢作川から運ばれた砂壤土の地理的条件を背景に発展してまいりました。特に昭和40年代後半から50年代にかけて新矢作川用水地区を始め、関連する土地改良事業の更新整備が進められたことで、農業用水の安定供給が可能となりました。また、ほ場整備が進んだことも相まって、作業効率や生産性が向上し、コンパクトでありながらも県内で有数の優良農業地帯となっています。

大まかに市の南部一帯は人参、玉葱といった露地野菜やトマトなどの施設園芸、養豚が盛んに行われています。ご承知の通り、人参や玉葱については市の特産農産物として県下有数の産地となっています。一方、北部は水稻、小麦、大豆といった土地利用型の作物や水田から畑への転換による無花果の栽培が盛んに行われています。無花果は愛知県が全国で2位の生産量を誇り、県内では安城市と碧南市が主な産地となっています。また、東部では露地野菜の



永井由美様はじめ8名



他、ハウスでのクルクマ、キク、カーネーションといった花卉の生産が盛んとなっています。

国の統計であります農林業センサスの数値であります。碧南市の農家数は平成 27 年度で 888 戸となっています。昭和 55 年は 1819 戸でありましたので、年々減少しているということでございます。減少の主な理由は農業の担い手の高齢化、そして、後継者不足であると言われております。農業の担い手が減っている中で、今後どうやって農業の維持、発展していくかというのが現代農業の抱える一番の課題でございます。

これは国の政策ではあります。他産業並みの労働時間と所得を目指す為に 5 年後の農業経営の目標とそれを実現する為の具体的な方策を定めた計画を策定し、しっかりとした農業経営をしていく農業者を市長が認定する制度があり、認定された方を「認定農業者」と呼んでおります。農業の担い手が不足すると、農地が適切に耕作されずにどんどん荒れてしまうことが予想されます。こうしたことを防ぐ為に認定農業者の方に農地を預けて、耕作をしてもらうことを国は推奨しております。従いまして、碧南市においても担い手が少なくなっていますが、認定農業者が経営を拡大し、機械化や生産方法の確立により、効率的な生産性の高い農業を営んでいるといったところが現状でございます。市内の認定農業者の数でございますけれども、令和 3 年 3 月末で 175 名であります。令和 4 年 11 月末の最新の数は 173 名であります。

続きまして、碧南の主な作物について、いくつか抜粋して紹介したいと思います。まずは人参でございます。碧南と言ったら人参ということをご存じの方も多いのかなあと感じているところでございます。昭和 7 年から 10 年頃にかけて桑園が整備され、その代作として人参が作付けされるようになりました。その後、戦後になりますが、急激に生産が増加し、昭和 42 年に人参の指定産地となりました。代表的な人参は JA あいち中央碧南人参部会に所属する農家さんが生産、出荷する「へきなん美人」というブランド人参で、皆さんも耳にしたことがあるかと思っております。今年も 11 月中旬から出荷が始まっており、例年の通り、甘くて美味しい人参が収穫できております。へきなん美人は 1 月に最も甘く美味しくなるということで、1 月 23 日をいい人参の語呂合わせから「碧南人参の日」と定め、市内外に PR をしているところでございます。

次に玉葱でございます。玉葱は昭和 35 年頃から栽培されるようになり、昭和 45 年度に指定産地となりました。11 月頃から定植をし、収穫時期は 3 月下旬から 6 月下旬までとなっています。特にブランド化を進めているのが「へきなんサラダたまねぎ」という名前で売り出しているもので、3 月下旬から 4 月中旬の約 1 ヶ月間で出荷されるものです。特に辛みが少なく、みずみずしいといった特長からオニオンスライスやサラダで食べるのがオススメだそうです。

次に花卉でございます。いわゆる花のことでございますが、碧南市では切り花の生産が盛んであります。碧南市のクルクマは全国 3 位の生産量を誇り、愛知県内では 90%以上のシェア率となっています。生産者は 8 名ということで少ないのですが、独自性のある品目ということで、ブランド化を強化している一番の推しの花でございます。5 月から 10 月までが出荷期間で、最盛期はお盆頃ということでございます。これまでは仏花としての需要が多かったのですが、最近ではブライダルや贈答用にも使われるなど、新たな需要が出てきています。碧

南市のクルクマの最大の特長は品質の良さで、特に花持ちが良いというところにあります。夏の暑い時期でも2週間程楽しめるそうで、販売単価も全国トップクラスとされています。

全部紹介したいところではありますが、時間の関係で一部省略をさせていただきました。市内では多くの品目の野菜などが生産されており、品目数から見ても優良農業地帯であることがわかります。

続きまして、農業における女性の活躍についてのお話をさせていただきます。農業における女性の活躍の場がどんどん広がっています。農業、農作業と言いますと、「キツイ・汚い・危険」という、いわゆる3Kとかつては言われていました。最近では機械化などが進み、作業が随分と効率化されてまいりました。その為、機械を扱う女性労働者も少しずつ増えてきたと伺っています。最近の農業においては、農産物の特長や美味しくいただく方法などを伝える、PRするという事で、直売所やマルシェでの対面販売、ネット通販でのPR、InstagramなどのSNSの配信、メディアでのPR、食育活動、地産地消推進活動に取り組む農家の方が増えてまいりました。食育活動、地産地消活動は主に子供たちに対し、食の大切さや碧南市で栽培される農産物などの特長を伝え、農業をより身近に感じてもらう取り組みであります。

次に農村生活アドバイザーとはということですが、農業経営に参画すると共に積極的に地域農業の活性化に貢献している女性農業者として市長が推薦し、愛知県知事が認定した方々のことを言います。愛知県全体での認定者の累計数は900名を超え、現在は360名の方がアドバイザーとして活躍しています。碧南市では現在8名のアドバイザーが研修や情報交換の他、地産地消や食育の推進を図る為の活動を行っています。

コロナ以前は小学生を対象に碧海地域で生産された小麦を使ったうどん作りの教室を行っていました。令和2年度になって新型コロナウイルスが猛威を振るいました。感染拡大を防ぐ為、学校では調理実習を中止と致しました。これにより、アドバイザーの活動がストップしてしまいました。そこで、アドバイザーの皆さんは今後の活動の在り方について、メンバーで検討をされました。その中で、アドバイザーの役目は一体何なのかということ話し合い、行き着いた答えとして、碧南は美味しい野菜が沢山作られている野菜の宝庫であることから、地元野菜の魅力を伝えると共に食の大切さや食への感謝の気持ちを子供たちに伝えることが役目と再認識されました。そして、自らの農家の体験を子供たちの学びに活かしたいという思いで、オリジナルストーリーの紙芝居を作ることを決められました。とは言っても、メンバーの中には紙芝居を作ったことがある方がおらず、構想や思いを語ることもできて、それを子供たちの興味を引く物語にして、更に絵を描くことについては不得手であった為、農業水産課の職員に相談し、職員を通じて手作り絵本を製作する「碧い鳥」というグループに紙芝居製作の協力を依頼することになりました。話を聞いた碧い鳥のメンバーは、地域貢献に繋がるという思いで快く承諾していただき、令和3年7月から製作の話し合いが始まり、令和4年3月末に「やさいだあーいすき！」というタイトルの紙芝居が完成致しました。

今日は農村生活アドバイザーの皆さんに紙芝居を披露していただきたいと思います。その前に簡単にあらすじを紹介したいと思います。この紙芝居は農業を営むおばあちゃんと小学生の孫が突然入れ替わってしまい、それぞれの“今”を体験する物語です。孫は野菜の育て

方を知り、おばあちゃんは60年ぶりに給食を楽しむ、という内容で、劇中には音楽に合わせて歌を歌う場面があり、歌と共に「へきなんどんぶり」などの献立を紹介します。それでは、農村生活アドバイザーの皆さんによる紙芝居「やさいだあーいすき！」をご覧ください。

ありがとうございました。以上で「碧南の農業と女性の活躍」のお話を終わりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内

令和4年12月14日（水）

卓話「学制150周年 碧南の教育の歩み ～明治初期編～」

碧南市教育部文化財課 市史資料調査室 調査員 北村 恒氏